

抗酸化体験談 vol-04 「もこもこパッド」

「もこちゃんで、涙が出るほど辛かった冷え性と肩こりを克服しました。今は、手術以前の身体に近づいています。」

札幌市にお住まいの高橋さまが、「もこもこパッド」のご感想をお寄せくださいました。早速、ご紹介させていただきます。



もこもこパッドと高橋さまご夫婦

私は、元々、超がつくほどの健康優良児で、「叩いても壊れない」と友人から言われるほどだったのですが、1年前の乳ガンの摘出手術をきっかけに、体質が180度変わってしまいました。以前は、身体がいつも熱くて、熱くて元気一杯だったのが、沢山の血管を切ったことで血行が悪くなり、極度の冷え性になってしまったばかりか、両肩が岩のように重くなり、不眠症にも苦しみました。それでも、「もこもこパッド」を使うようになってからは、冷え性も、肩の重さも、不眠症も一気に解消して、今は手術以前の身体に近づいています。

最初、私は乳ガンを自分で見つけました。ある日、自分で胸を触っていた時に、以前はなかったしこりがあったのです。「もしかしたら…」と嫌な予感がして病院に行って検査をしてみると、予感的中。

「やっぱりガンだった」と思うと、頭の中が真っ白になりました。一緒に病院に行った娘は診察室から出てきた私の顔を見て一目で結果が分かったといいます。

私には、変な自信がありました。前の年に姉を胃がんで亡くしていましたし、姉の子供も卵巣がんを経験していたことから、「うちの家系はがんになるんだ」と思っていたのです。

家に戻った私は、主人に「お父さんごめんね。あたし、乳ガンだった」と謝りました。

息子にガンであることを伝えた時には、涙を懸命にこらえていました。翌朝、部屋に行くと目を真っ赤に腫

らしていて、きっと、夜の間ずっと泣いていたんだなと思いました。

私のガンは、発見当時、1センチ9ミリ。お医者さんからは「初期、1期、2期の2期。温存手術をすれば、10年は大丈夫」といわれました。

けれども、転移が怖いですし、あと、1ミリで、2期が3期になるのも心配でした。何より、まだ下の娘が小さいので20年は生きていたいという強い思いがありました。そのためにも、ちょっとでも健康でいたいし、動ける身体でいたい。

それに、もう、この年齢だからオッパイはいらない。手術の痛い思いも一回でいい。そう、思って全摘出手術を選びました。手術の時には、死んだ姉が枕元に立ってくれて、「大丈夫だからね」といつてくれました。

手術が終わった後は、麻酔が切れた痛さで目が覚めました。そして、入院中は、痛さがずっと続いたのですが、お父さんが毎日、朝、晩、見舞ってくれてマッサージをしてくれました。

手術と同時に行われたリンパ節の組織検査の結果次第では、再発の可能性が変わるということで、検査の内容はとても心配でした。リンパに入ると、全身にガンが回って転移する可能性が高まるのです。結果、私のガンはリンパに入っていないことが分かりました。

入院中には、たくさんのガンの方を見ました。先生からは、手術の時には「4キロから5キロやせなさい」といわれるのですが、悪いがんの方は、みんな激ヤセしているように思いました。骨と皮になった方は、まず、助からないのです。

その様子を見ながら、「私は大丈夫。前向きに生きよう。これからも、普通に生きていける。手術は成功したんだから、私はがんじゃない」と、何度も自分に言い聞かせました。前向きだけが私の取り柄なのです。

そして、入院中は、近くにいる人と他愛のない話をしながら、いつも大声で笑っていて、看護師さんからは「本当にあんたらガン患者なの？」と怒鳴られるくらいでした。先生も「笑うのが一番。それががん細胞を追い出すから」といってくれました。看護師さんには、一度だけ、「私はガンを取ったからがんじゃない」と答えました。

ようやく病院から帰ってくると、全身に、以前には感じたことのない寒さを感じるようになりました。帰ってきた途端、「寒い、寒い、寒い」という感じで、居ても立ってもいられないのです。病院は、1日中、寝巻きでいられるように温かかったので、戻ってみて、手術で体質が変わっていたことに、初めて気がつきました。手術が11月だったので、余計に寒さに向かう時期でもありました。

それで、今までには着たことのない、もも引きをはき、長袖のシャツを着るようになりました。夏場でも、今まで、ノースリーブばかり着ていたのが、長袖のシャツは手放せなくなりました。夜は、毛布が2・3枚ないと眠れません。周りの人からは「こんなに暑いのに」といわれるのですが、私は寒くてしょうがないのです。

普段でも、ふとんを2枚にしてストーブも強くたきましたが、それでも、寒くて、寒くて大変でした。一年中、みんながどんなに温かいといっても、私だけはゾクゾクするくらい寒さを感じてしまうのです。さらに、血行が悪いせいか、指先も痺れるようになりました。

寒さのせいで、不眠症にもなりました。寒くて眠れないで居ると、今度は、水のしずくや、冷蔵庫のモーターのような小さな音が気になってくるのです。夜中に遠くを走る車の音や、どこかで扉がしまる音など、どんどん、どんどん気になってしまって、それで余計に眠れなくなりました。すると、朝も起きられませし、力も出ません。気分もどんどん暗くなっていきました。

あと、乳がんの手術以来、手術をした方の肩に加えて、反対の肩も上がらなくなったことが大変でした。寝る時に、手術をした反対側しか下に出来ないために血行が悪くなり、何でもない方の肩も動かなくなってしまったのです。

オッパイが片方が無いので、身体のバランスが悪くなったのもあると思うのですが、とにかく、両方の肩が重くて、腕が重くて、乳がんの手術でも泣かなかつたけれど、肩が思い通りにならなくて泣きました。息子やお父さんに荷物を持たせることが出来るといっても、財布が入った袋さえ持つことが出来ませんでした。

病院で一週間に一回の痛み止めの注射。「今日は前に注射打ちますか？後ろ打ちますか？」。そして、薬も言われるままに飲んでみたのですが、びっちり通っても良くなるたないのです。先生も「こんなに重症なのは見たことが無い」というくらいでした。先生に「良くなりましたか？」と聞かれた時には、愛想で、「ちょっと変わりました」というくらいで「この肩どうなるだろう」と思うと涙が出ました。

ある時、携帯電話を充電する線にひっかかって躓(つまづ)いたことがありました。普通なら、ちょっと床に手をつけば何でもないので、ちゃんと手が出ないので、一瞬身体が宙に浮いて、ドーンと頭から倒れたのです。

その時には、「これなら死んだほうがましだ」というくらいに悲しくて、お父さんに八つ当たりしてしまいました。それでも、主人は嫌な顔一つしませんでした。

「これがいつまで続くんだろう」と思って、色んな人に、どうやって冷え性を治したか聞いてみました。温泉、マッサージ。どれも効果は続きません。私は、周りから見たら普通と変わらないけれど、はるかに重症だったのです。

しまいには、異常だからどうしようもないと思って、近所のスーパー銭湯に毎日通っていました。その瞬間だけは、多少楽になって、何とか夜も眠ることが出来たのです。

そんなある日、お父さんが玄関の取り替えの代金を支

払いに飛栄建設に行くというので、私も、ついていくことにしました。陶板浴がどんなのかも見たいと思っていたからです。

そして、会社に一步入った瞬間、何故か「もこもこコパッド」が目飛び込んで来て、すごく興味を引かれました。「あれ何？使ったら、どうなるの？」と、すぐに松田社長に聞いてみると、「眠るのに温かい」という返事なので、すぐに欲しいと思いました。「あ、それなら私も！」という感じです。私はとにかく寒いのが悩みだったので、温まりたい気持ちで一杯でした。

値段は1万2000円。「2000、3000円のものじゃないけれどいいの？」と、社長がいましたが、「いいよ。買う、買う、買う」と答えました。スーパー銭湯に行ったら400円×30日で12000円。1ヶ月通うことを考えたら安いと思いました。

本物の温泉には、なかなか行けませんが、スーパー銭湯には、毎日のように通っていました。これで毎日、温泉のように温まる事が出来ればラッキーです。私の中では、「これは、何か良いことがありそう」という、運命的な予感がありました。

そして、「もこもこコパッド」を連れて帰ってきたのですが、お父さんに敷いてもらって使ってみると、温かいどころか、本当に暑いくらいに感じました。



(ベッドマットの上にパッドを敷いたところ)

以前は、布団を何枚もかぶって、えびのように小さく丸くならないと眠れなかったのが、布団を蹴るとばしってられるくらいに温かいのです。そして、手足を伸ばして広がってのびのびと眠ることができるようになりました。これまでは、いつでも毛布は2枚欠かせなかったのも、いらなくなりました。

あと、以前は、寒いと、おしっこが何回も出て、よ

く眠れなかったのですが、夜中にも起きなくなりました。同じ時間寝ていても、体の疲れのとれかたが違うので、熟睡しているんだと思います。手術後は目が覚めても体が覚めないという感じだったのですが、今は、体が温まっているので、起きるとすぐに動くことが出来るようになりました。指先が冷たいということがなくなりましたし、体調がすっかり変わりました。

それから、以前は、肩が上がらなかったのが、すごく良くなって、肩に貼るシップをもらうのに病院に行くことも少なくなりましたし薬も減りました。

肩が滑らかになると、口も滑らかになりました。お父さんは、「よくしゃべるようになって、元気になってきているのが分かった。どれだけしゃべるかが、お前の元気のバロメーター。肩が痛いときには、いつも眉間に縦ジワだった」といっています。

実際、肩が痛い時には、痛さがハンパじゃないので、しゃべりたくもありませんでした。気分が楽になると、人間、しゃべりたくなるんですね。お父さんは、私の口が回ってくると安心できるそうです。本当に身体の調子は良くなりました。そして、知らないうちに寒さを忘れていたのです。

先日、銀行員のある友達が「寒いね、寒いね」というので、その時になって、私も、ちょっと前まで寒さで悩んでいたことをパツと思い出したくらいです。「何でそんなに寒い？」と聞いてみたのですが、胃がんの手術をしてから寒くなったそうです。

そこで、彼女に、「私はこのパットを使っているから」といって、一つ買って届けてあげたのですが、翌日、「あったかくて天国に行くかなと思った」と話してくれました。この友達も、手術以来肩こりがひどかったのが、このパッドで肩こりが無くなったといっています。

その友達には、「私は手術でこんなに切ったのよ。けれど、これのおかげですっかり温かくなったわ。これのおかげなの」というのを忘れていましたから、本当に、温かったんだと思います。

あと、親戚のおばあちゃんにも、一枚、プレゼントし

ました。「温かくて良かった」といって電話をくれます。「これまで、電気毛布や敷布をつかっていたのが、何もいらなくて、これひとつで、すごく温かい。あったかくていいね」といってくれます。

「このまま天国にいつてしまえそう」というので、「そのまま行きなさい」と伝えました。ちなみに、私は、まだ、天国には行きたくありません。あと20年してから天国にいきます。このパッドは、年配の人にもいいと思います。

お父さんとは、「あの時、飛栄建設さんに行って、本当に良かったね」と話しています。モコちゃんに会えて本当に良かったです。これから、陶板浴に行かれる方には、ぜひ、勧めてあげて欲しいです。これがあれば、あと20年生きていられそうです。愛用3ヶ月、これのおかげで幸せです。

今は、この1年を振り返ってみて、完全に健康になった訳ではありませんが、私、まだまだ大丈夫。20年どころか30年も大丈夫だと思えます。形は変わったけれど、元気で、健康になれました。そして、今は、病気のことを聞かれても平気で話せます。できることなら、自分の病気を隠したいと思うのが普通だと思います。でも、乳ガンは分かります。乳がんだけは自分で見つけることができるので、みなさんに健康でいて欲しいなと思います。

このパッドは、手術や、病後の人には特に向いていると思います。健康な方は気づきにくいかもしれませんが、病気になると、自分の体の調子が良くないというのが分かります。

回復の悪い人方、健康な人にはこの寒さは分からないと思う方へ、そんな方に、絶対にお勧めします。私は肩も良くなりましたし、指先のしびれも取れました。

健康な人は、より健康に。悪い人はぐっと良くなると思います。自分が使って温かいし、友達も温かいというので信じていることができます。

通販のカタログを見ると、身体を温めるパッドは、19800円とか高額なものがざらにあります。冷え性

の人が、羽毛布団の何十万のものを買ったのに温まらないという方もおられます。

けれども、これは12000円。ものすごく安いと思います。おかげさまで、本当にあったかいです。これに会えた私は幸せです。これひとつあれば一生使うことができます。

胃がんで死んだ姉は「寒い」とよくいっていました。ガンの治療をしている時に、1本5000円のお茶とか、色々送って、少しでも役に立てばと思いましたが、もこもこパッドを使わせてあげたかったです。

松田社長は、押し付けがないのが良いところなのですが、もう少し、商売っ気持って欲しいと思います。遠慮がちな社長さんだから、何十年も知り合いなのに、こんないものを教えてくれないし、勧めてもくれないのです。

だから、もっと「勧めなさい」といっていますし、じれったくて腹が立ちます。どうして、いつも「もっと宣伝しないんだろうね」と夫婦で話し合っています。

こないだも、私のがんの手術をしたのを知って「陶板浴がいい」といって、サービス券を1枚持ってきてくれたことがありましたが、「今度、是非、ご夫婦で来て下さい」といって、2枚は持ってこないのです。「あたしたち2人なのね」と、主人と言い合っています。

最後に、病気やなんやで、お金を掛けてもらった奥さんだから、これから、お父さんには良くしてあげたいと思います。私が、肩の痛さで嫌味を言った時にも、愚痴ひとつ言いませんでした。だから、この元気になった身体で、お父さんの身体を介護してあげたいというのが私の希望です。(終わり)



(3人で写真を撮らせて頂きました)